



室蘭工業大学

学術資源アーカイブ

Muroran Institute of Technology Academic Resources Archive



## まえがき

メタデータ	言語: jpn 出版者: 室蘭工業大学 公開日: 2015-03-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東野, 和幸 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10258/3769">http://hdl.handle.net/10258/3769</a>

## まえがき

著者	東野 和幸
雑誌名	室蘭工業大学紀要
巻	64
ページ	1-1
発行年	2015-03-13
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10258/3769">http://hdl.handle.net/10258/3769</a>

まえがき

航空宇宙工学は、多くの関連分野の知識と技術を融合させて初めて実現する事の出来る総合システム工学です。空気力学、推進工学、航空宇宙構造・材料工学、航空宇宙誘導制御工学、実証する設備における試験技術等の各基盤分野で成り立っており、かつシステムとして統合する技術力が必要です。波及効果の大きさから世界各国は戦略的な科学分野と位置付け科学技術発展と人材育成の場としています。

当センターが取り組んでいる大気を利用して高速・高々度まで飛行する輸送システムは、地上間輸送及び地球軌道への往還輸送の双方を見据えた基幹システム技術であり、また重要な基盤技術です。飛躍的な発展が期待できる分野です。

総合科学技術会議は、国家基幹技術の一つとして宇宙輸送システムを第3期科学技術基本計画に盛り込み、促進しています。さらに第4期科学技術基本計画ではグリーンイノベーションの促進ということで環境にやさしいシステムの実現が盛り込まれています。

室蘭工業大学では、第二期中期目標において、重点的に取り組む特定研究分野として、航空宇宙機システム分野を設定し、国際水準の成果を達成するという中期計画を掲げ、独創的・先進的研究を戦略的に推進する事になっており、航空宇宙機システム研究センターはこれを実践してまいりました。革新的技術は、構成要素の小型・軽量化と高効率化および環境負荷の低減にあり、またシステムの観点から空力抵抗の低減、燃焼効率の改善など、実験から解析までを取り込んだこの分野が果たす役割は極めて大きいものがあります。

この特集号では、航空宇宙機システム研究センターが中心となり遂行している主な基盤研究についての成果を報告します。

航空宇宙機システム研究センター  
センター長 東野和幸